mediford Zoom Webinar

ONLINE EVENT

基礎編

杉山先生と学ぶ

非臨床における心エコー検査の意義と小動物での実例

‘25.11.21（金）17:00 – 18:00

特別講演

杉山 篤 先生

｜東邦大学医学部客員教授、山梨臨床薬理研究所所長

心エコーを駆使した薬物誘発性心機能障害の評価

心周期の４つの時相へのアプローチ

近年、抗がん剤の開発が進む中で、QT間隔の延長や左室の収縮・拡張障害が心臓への代表的な有害作用として認識されている。QT間隔延長については、2022年発効のE14/S7B Q&Aによって開発段階でリスク評価ができるようになったが、左室の収縮・拡張障害に関するガイドラインは未整備のままである。現在、in vitro心筋細胞シートの収縮・拡張速度、in vivo心血行動態検査における左室内圧の最大立ち上がり・降下速度、心エコー検査より得られる左室駆出分画などが候補化合物の評価指標として使用されている。特に、心エコー検査は非侵襲的で反復可能、さらに臨床への外挿性が高いため、多くの施設で採用が進んでいる。しかし、規制当局への対応に耐えうる信頼性の高い評価を行うためには、単に高精度の心エコー装置を導入するだけでなく、検査者や開発担当者が心臓機能について深い理解を持つことが不可欠である。

本ウェビナーでは、まず左室圧–容積（PV）ループを用いて心周期の4つの時相（等容性収縮期、駆出期、等容性拡張期、流入期）を説明し、次に収縮・拡張障害に関する基本的な概念を紹介し、最後に心エコーを活用した各時相における左室機能の評価法を詳しく取り上げる。

自社講演

真壁 大地

｜メディフォード株式会社 創薬イノベーションセンター

最新の超音波イメージング機器を用いた非臨床における小動物エコーの現状

従来、小動物の超音波（エコー）検査には、ヒトの検査に用いられる臨床用エコーが多用されてきた。しかしながら、マウス心臓の大きさは1cmに満たず、心拍数も500 bpm以上と高速であり、臨床用エコーの解像度および時間分解能では測定可能な項目に限りがあった。近年、高解像度のイメージング機器が開発されたことにより、マウスにおいても四腔断層像の描写による拡張機能評価など、臨床に外挿性のある多様な項目が測定可能となっている。

本ウェビナーでは、実験動物用超音波高解像度イメージングシステムVevo F2によるマウス心エコーの知見について、実際の測定例を紹介する。

参加登録はこちらから

↓↓↓

https://pages.mediford.com/EV-MDF_20251121_registration_fr215b.html

同業他社の方はお申込みいただいても参加URLの発行は控えさせていただくことがあります。
予めご了承ください。

お問い合わせ｜ウェビナー事務局

メディフォード株式会社

medf-dds-ddsso@gg.mediford.com

本社｜〒174-0053 東京都板橋区清水町 36 番 1 号

「生きていく」を明るく、前向きにする。

mediford
A Member of PHC Group